キャリアデザインセンター

課題解決型インターンシップ

学びの成果を地域の活性化に

キャリアデザインセンターでは、川崎市と連携して、企業や地域の課題を解決するインターンシップを実施している。

ゼミナールや授業での学びの成果を地域に発揮した学生たちが得たものを紹介する。

「しんゆり・芸術のまちづくり」フォーラム

新百合ヶ丘のPRに前川ゼミ・生田目ゼミが活動

「しんゆり・芸術のまちづくり」フォーラム（以下、フォーラム）に協力している2つのゼミの活動を紹介しよう。

「ひとつの灯りでみんなの輪を～キャンドルナイト」

前川ゼミ

商学部の前川明彦ゼミは、スローライフをテーマに「キャンドルナイト」を企画。12月19日、小田急線新百合ヶ丘駅南口ペデストリアンデッキ中央部周辺を2000本のペットボトルに入ったキャンドルが彩った＝写真左。

コミュニティ・ビジネスや地域再生などを学ぶ同ゼミでは、2008年にエコバッグ制作を通して、フォーラムの活動に初めて参加。その際、「古くから住んでいる住民と若い世代との交流が不足している」と感じ、市民参加型のイベントを通して、異世代交流を図ろうと企画を考えた。

「『芸術のまち』をイメージづけることができるのか、安全に実施できるのか、当初はフォーラムの方に納得してもらえませんでしたが、キャンドルを立てた実験を見せたり、他の地域の成功例などを集めた膨大な資料をプレゼンしたりして、ようやくOKが出ました。前年度、先輩たちが行った実績の信用があったおかげです」と高丘智貴ゼミ長（3年次）。

副ゼミ長の福島由子さん（同）は、「何度も企画書を書き直したり、会議に出席したりするゼミ長の奮闘ぶりに『学生だからといって甘えは許されない。信頼を裏切らないよう、記憶に残るイベントにしよう』という共通認識ができあがり、ゼミの結束が強まりました」と語る。

▲　準備する前川ゼミのメンバー

ペットボトルは、専大生のほか、キャンパス近隣の飲食店の協力で集まった。イベント当日は、昭和音大の学生によるクリスマスソングの合唱がクリスマスムードを盛り上げ、多くの家族連れがキャンドルの前で足を止め、写真を撮るなどしていた。

「ご家族や友人同士で語り合う空間を演出できました。今後は、もっと市民の方に参加してもらえるように企画をブラッシュアップさせていきます」と高丘ゼミ長は話した。

『屋根裏のポムネンカ』

映画の後にスイーツで心温まるひとときを演出

生田目ゼミ

同じく商学部の生田目崇ゼミの宮野詩織さん、家田絢矢子さん、立野蓉子さん、斉藤葵さん（いずれも3年次）は「CINEMA'Cafe @ SHINYURI」と題し、チェコの人形アニメーション「屋根裏のポムネンカ」に登場するお菓子をイメージした「手作りケーキセット」＝写真を企画。12月後半の金・土・日に1日20食限定で販売し、好評を博した。

メンバーは、フォーラムのスタッフから街づくりのキーパーソンは「女性」と聞き、まず「食べ物」をイメージ。動線調査をしたところ、映画館に来る人が多いことが分かり、2つを結びつけようと考えた。人気映画とコラボレーションしようと大手映画会社に連絡を取ったが反応がなく、一時はあきらめかけたが、川崎市アートセンターから、「クリスマスシーズンに、心温まるアニメの上映予定がある」と聞き、企画を練り直した。

「お菓子のデザインは決まったのですが、作ってくれるお店探しに苦労しました」と話すのは斉藤さん。10軒近くに断られたが、会って熱意を伝えたケーキショップ「ミツバチ」から、了解してもらうことができた。温かい雰囲気のポスターやチラシは立野さんが担当。初めて使うソフト・イラストレーターに苦労しながらも、「読みやすい文字の選択、表現方法などを生田目先生からアドバイスしてもらい、形になりました」。「企画書を書くのも、社会人の方の前でプレゼンテーションするのも初めての経験。何度も書き直して、人を納得させる文章の書き方が身につきました」と家田さんは話す。

▲　思いをカタチにした生田目ゼミの４人

生田目准教授は「6カ月の活動を経て、普段のゼミでも率先して動くようになった」と評価する。

まとめ役の宮野さんは、「『学生だからこそ、できることがある』とアドバイスされ、行動することで実際に周囲が変わっていくことを体験しました」と活動を振り返った。

「登栄会 子どもチャレンジショップ」に協力

多摩区の小学生に『起業体験』―５人の学生が参加

▲　活動を振り返る佐藤さん（写真中央）ら５人

◀　小学生たちが力を合わせたチャレンジショップ（10月31日）

多摩区の登栄会商店街からの課題には、5人の学生が参加。小学生たちに会社の設立から事業計画書の作成、資金調達、広告・接客販売・収支計算などの体験を通して、経済の流れを学んでもらい、商店街の活性化につなげようと企画した「子どもチャレンジショップ」に、佐藤竜太さん（商3）、畑中孝仁さん、小野剛さん、大瀧啓介さん、山本宗学さん（以上、経営2）のほか日本女子大学、玉川大学の学生が、子どもたちを応援するリーダーとして協力した。

佐藤さんたちは8月から、参加者募集のチラシ作成やポスティング、教材の考案に取り組むと同時に、コミュニケーションを円滑にし、意見を引き出す「ファシリテーション技術」の講習を受け、準備を進めてきた。

商店街活性化に興味があるという小野さんは「最初の顔合わせで、うまくコミュニケーションがとれず、それが最後まで響きました。導入が肝心だと痛感しました」。

経営コンサルタントの事務所で勉強中の畑中さんは、商店街の方と話すうちに、向ケ丘遊園駅北口と南口の商店街の温度差を感じ、新たな名物を作ったり、交流しやすいルートを確保したりするなどの企画を考え、商店街の理事長に提案した。

「将来に結び付く、実践的な学びの機会を子どもたちだけでなく、私も得ることができました」と振り返る。教職希望の大瀧さんは、「自主性に任せながら、話が進まない時には、意見を言いやすいように導こうと思っていたが、どこまで介入したらいいのか、戸惑うことも多かった」と接し方の難しさを実感した。

10月31日の本番では、商品のデザイン、お店の場所（立地条件）や設定価格の差などから、売り上げに大きく違いが出た。ボランティアに興味があって参加したという山本さんは「子どもたちは、商売の面白さと難しさを体感したと思う。『また参加したい』とほとんどの子どもが話してくれ、私たちも達成感があります」と話した。

本学のまとめ役として11月18日、日本女子大学で活動報告を行った佐藤さんは、小学生のころから、地元（福島県いわき市）の商店街活性化にかかわってきた。「3つの小学校からの参加で、まとまるかどうか心配していましたが、目標に向かって共同作業をする中で、自立心や向上心、チームワークが育っていく様子が分かりました。今回の経験を地元でも実践してみたい」と話した。

徳田ゼミ「長沢商店会クリスマスイベント」

長沢商店会（多摩区）の活性化に取り組む経済学部の徳田賢二ゼミ生は12月23日、クリスマスイベントとしてフリーマーケットやコンサートを催した＝写真。

菓子類や飲み物の販売をしたほか、地元の聖歌隊「J&S陽だまりコンサート」や百合ヶ丘高校の軽音楽のバンド、本学Jazzサークル「MJAブルーコーラル」の演奏が行われ、会場と沿道に集まった市民から大きな拍手が送られた。